

# 魅力発信で地元を活気づける！

～OUR snow との未来に向けて～



京田 汐月(きょうだ ゆづき)  
富山国際大学附属高等学校 2年

嶋之内 心優(しまのうち みゆ)  
富山県立南砺福野高等学校 1年

## 活動概要

### 活動の内容

オリエンテーション合宿であわすのスキー場の歴史と、松井さんをはじめとする地元の方々のあわすのスキー場をもっと盛り上げたいという熱い思いについて学んだ。そこで、あわすのスキー場の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいと思い広報活動を行った。

主な広報活動は、あわすのスキー場や私たちがそれぞれ通っている学校でチラシや割引券の配布・InstagramやYouTubeなどSNSを利用した魅力発信。

### 活動の特徴(新規性・発展性)

新たにあわすのスキー場のイメージキャラクターの着ぐるみを作成し、来場者に名前を考えてもらう活動を行った。

2代目あわすのガールズを結成し、県内を中心に広報活動を行った。

### 活動の成果

あわすのスキー場のイメージキャラクターを発案し、新たなイメージブランドを創出することができた。

キャラクターの着ぐるみを着用し、広報活動を行ったことで、多くの人から注目を集めると共に、あわすのスキー場を知ってもらう機会を増やすことができた。大手スポーツ用品店にブースを出展し、200名を超える方にパンフレットを手渡すことができた。スキー場を離れてのPR活動は認知度を高める効果は絶大であった。

## 課題の設定と意図

オリエンテーション合宿に参加し、富山県に住んでいるにも関わらず、初めてあわすのスキー場の存在を知った。フィールドワークや演習、アクティビティ体験を行う中で、あわすのスキー場の歴史や支配人の松井さんをはじめとする地元の方々のもっと盛り上げたいという熱い思いに触れ、私たちにもその熱い思いが伝わってきた。

しかし、一つの疑問が生まれた。今まで私たちが知らなかったということは、他にもあわすのスキー場の存在を知らない人がたくさんいるのではないかと考えた。

そこで、自然豊かで、冬はもちろん、夏もたくさん楽しいアクティビティがあり、多くの魅力が詰まったあわすのスキー場をもっと多くの人に知ってもらうことで、来客数を増やしさらに活気あふれる場所にしようと考え課題を設定した。

## 課題解決のための仮説と計画

あわすのスキー場をもっと多くの人に知ってもらうことで、来客数を増やしさらに活気あふれる場所にするために、まずは、県内に住む人をターゲットにあわすのスキー場の魅力を伝える必要があると考えた。

そこで、「様々な方法であわすのスキー場の魅力を伝えることで来客数が増加し、あわすのスキー場がより活気づくのではないか」という仮説を設定した。

この仮説の実証のため、私たちはまず以下の計画を実施した。

①「あわすのガールズ」を結成、PR動画をSNSで発信

→オフシーズンのアクティビティを私たちに紹介し、SNSに発信することで手の届かないところにもあわすのスキー場の魅力を知ってもらう。

②あわすのスキー場のイメージキャラクター作成

→イメージキャラクターを作成し覚えてもらうことで、よりあわすのスキー場の印象が残りやすくなる。

③広報活動

→自身のSNSでの発信・チラシと割引券の配布(学校や立山少年自然の家でのイベント等)

## 活動で工夫できたこと

あわすのスキー場のマスコットであるヤギをモチーフとしたイメージキャラクターの原案をデザインした。お客様の注目をひくとともに、親しみをもってもらうことをねらいとして、あわすのスキー場を離れての広報活動の中で、このキャラクターの着ぐるみやキャップを着用して活動した。

「感謝」の気持ちを伝えるために、パンフレットや割引券を配る際、「ありがとうございます」という言葉を忘れずに添えて手渡した。なぜなら私たちのためにわざわざ足を止め、話を聞いてくださったからだ。オリエンテーション合宿で、あわすのスキー場のイベントにスタッフとして参加させていただいた時、松井さんは「ここは“サービス”を大切にやっているから、やり過ぎなくらいサービスするんだ」とおっしゃっていた。実際、あわすのスキー場の方々はとても優しく、サービス精神旺盛だった。その優しさに触れ、サービス精神というのは「感謝」の気持ちがないと生まれないと思った。そこで、私たちはどうしたらお客様に「感謝」を伝えられるか考え、まずは、足を止めてくださった方々に「ありがとうございます」と感謝の気持ちを言葉と笑顔で伝えることにした。当たり前的事ではあるかもしれないが、明るく笑顔で接するのはもちろん、感謝をきちんと言葉で伝えることでお客さんも笑顔になったように感じた。



京田 汐月

オリエンテーション合宿に応募し、参加したことで今まで知らなかったことを知ることができた。あることを知るためには自分から積極的に行動することが大前提であり、最も大事だということを改めて学んだ。あわすのスキー場で開催したイベントのスタッフとして、ピンゴカードを販売する役割を行ったときや、チラシを配ったときでも、積極的にお客さんと話しかけることを意識した。また、チラシ配りのときに、イメージキャラクターのグッズを着用して配ることにより、多くの人が注目し、何人かの人と写真を撮ることもあった。それ以外にも、秋の大感謝祭のときに、イメージキャラクターの着ぐるみに話しかける子供が多数いた。これらのことから、普段見ないめづらしく、インパクトのあるものは人々の印象に残りやすいのではないかと考えた。イメージキャラクターにより、あわすのスキー場をよりアピールすることができると言えるだろう。相手の興味を引くような工夫をすることも重要だと学んだ。

私はオリエンテーション合宿と実践活動を通して、他にはないあわすのスキー場の良さを知ることができた。そこで、県内だけでなく県外にもあわすのスキー場の魅力を伝えたいと考える。あわすのスキー場で冬に開催されるイベントでは、私たちが作成したイメージキャラクターの名前の発表会がある。より多くの人に興味を持ってもらうため、発表の仕方を工夫したり、SNSにインパクトを残すような投稿をしたりなど、尽力できたいと思う。しかし、魅力を伝えるには、ひとりの力だけじゃできない。まずは、たくさんの人に魅力を知ってもらい、その人もまた違う人に伝えるなど、多くの人々の協力が欠かせない。あわすのスキー場の支配人の松井さんが次のように言っていた。「人をとことん大切に、なんでも一生懸命に。」他人への優しさはいつか自分に返ってくる。人に優しくすると、それを見ていたほかの人が自分の助けになってくれると、私は考える。実際に、松井さんの周りには、たくさんの人で溢れている。優しさの数に比例していくのではないか。人に優しくすることは決して簡単ではない。私も、今関わっている人、そしてこれから関わっていく人に優しくできるような人間になりたい。あわすのスキー場から次に繋がる地域探究では、相手が富山の魅力を知り、レポートしてもらえるようにするため、まずは積極性をもつこと、そしてその場所、その時の出会いを大切に、人をとことん大切に、なんでも一生懸命にしようと思う。

体験しないと知ることのできない快感、達成感、感動をこれからもたくさん味わっていけたらと思う。立山の文化、あわすのスキー場のことに深く触れることができ、いい経験ができたと思う。

嶋之内 心優

オリエンテーション合宿で、あわすのスキー場を廃業の危機から復活へと転じさせた松井さんから大きく3つのことを学んだ。1つ目は「何事も課題が分かればそれをクリアする方法を見つけるのみ。」だ。勉強においても、部活動においても、趣味においても、課題が見つければその課題を乗り越える方法を考え、実践することで成功しても失敗しても自分の成長に繋がる。この課題を見つけて達成する方法を考え、実行するという意識は今回の探究プログラムの活動に大いに生かされた。2つ目は「その場所・その時の出会いを大切に。」だ。活動の中でお世話になる人、出会った人との関わりを大切に、活動に取り組んだ。すると、人を大切にすることで、自分も大切にされるのだと気づくことができた。3つ目は「なんでも一生懸命に。時間は24時間しかない。」だ。これは自分にとって無駄だと思う時間も含めてどんなことでも一生懸命に取り組むということである。一生懸命取り組めば、誰かは見ているし、そうでなくても一生懸命取り組んだという自分の自信にもなる。すると、さらに高みを目指して行動を起こそうとするから成長に繋がる。オリエンテーション合宿では、普段の生活においてもとても大切なことを学んだ。

これらを踏まえて私は実践活動に取り組んだ。実践活動で学んだこと、気づいたことは、地元(立山山麓地域周辺)であわすのスキー場を宣伝するのと、地元を離れ自分の学校や別の地域で宣伝するのでは知名度や訪れた回数異なるのはもちろん、興味をもって立ち止まってくれる人やパンフレットを手にとってくれる人が少ないことが分かった。地元で宣伝するとあわすのを知ってくださっていたり、よく足を運んでくださっていたりする人も多く、声をかけると興味をもって立ち止まってくれる方が多かった。一方、地元を離れるとあわすのを知ってくださっていた方も多少いたものの、あわすの知らない人が半数以上だった。私の学校ではほとんど知らない人しかいなかった。これが現実なのだと思った。しかし、考え方を換えれば、地元を離れて活動を続ければもっとたくさんの人にあわすのスキー場を知ってもらうことができ、来客数も増やすことができるのではないかと考えた。今後あわすのスキー場をはじめ、富山県の魅力をまずは富山県民が知れるように地域の魅力を発信していきたいと思う。また、今回できたとても貴重な体験に感謝し、オリエンテーション合宿で教わった、課題を探しそれを達成する方法を考え実行する、その場所・その時の出会いを大切に、なんでも一生懸命に取り組むということを念頭に置き、様々な活動にも挑戦していきたいと思う。



## 1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	中部
---------	---	---------	------	------	----

## 2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立立山青少年自然の家	修了日	2023/7/31	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	郷土料理の調理体験、立山博物館見学、あわすのスキー場イベント運営協力を行い、地域活性に関わる人の思いや行動から生まれた地域の魅力を知る活動を行った。				
実践活動期間	2023/8/21 ~ 2023/11/23				
活動のタイプ	新たな活動				
協力者	主な協力者		協力内容		
	所属	NPO法人あわすのスキー場	SNSでの宣伝、イベントへの協力・アドバイス		
	氏名	松井 一洋、宮本 勲			
	所属	芦峯寺ふるさと交流館「まんだら食堂」	郷土料理体験の協力		
	氏名	佐伯 照代			
	所属	富山県[立山博物館]	地域の歴史・文化・県外出身者から見た立山の魅力講義		
氏名	奥澤 真一郎、坂口 舞	義			
協力者総数	5名	協力団体数	3団体		

## 3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全7日

事前:準備・打合せ	1日	本番:メインの活動	5日	事後:ふりかえり・報告	1日
-----------	----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
SNS	自ら発信	1回	アクティビティを体験動画にまとめ、あわすの公式アカウントから発信
SNS	自ら発信	1回	あわすのスキー場のオープン情報や割引情報などを個人アカウントから発信

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
8/21 ~ 8/21	①事前学習・打合せ等	あわすのスキー場	イベントスタッフの仕事の確認と今後の広報活動の打合せ
9/17 ~ 9/17	②実践活動本番	あわすのスキー場	グリーンシーズンアクティビティの体験動画の撮影
10/22 ~ 10/22	②実践活動本番	あわすのスキー場	考案したイメージキャラクターの命名イベントなどを運営
11/2 ~ 11/3	②実践活動本番	国立立山青少年自然の家	ヤギのエサやり体験ブースの運営と広報活動
11/23 ~ 11/23	②実践活動本番	スーパースポーツゼビオ蜷川店	店頭ブースでのパンフレットや割引券の配布による広報活動